



萩往還の場合、山口市内を除けば、萩～防府間はほぼ国道 262 線沿いに延びている。一方、石州街道の場合は、小郡から津和野手前まで、ほぼ JR 山口線沿いに延びている。ともに江戸時代の長州藩にとっては最も重要な街道として位置付けられていた。先日萩往還を歩いた時に見かけた国道 262 号線を走る JR バスの乗客はわずか数人。山口線にしても、山口～津和野～浜田間は大幅赤字としてリストアップされていたから、最重要街道も、そんなわけで元気がない。長州藩の街道は大道、中道、小道というランクに分けられているが、一寸味気ないネーミングである。まさか松竹梅、甲乙丙、というわけにはゆくまいが、もう少し洒落た名前が欲しかったと思うのは私だけではないだろう。その大道の一つである石州街道も、いよいよ湯田温泉に入った。

新聞折込のミニコミ誌「サンデー山口」の掲載もこれで 7 回目となったが、36 回予定なのでまだまだ先は長い。掲載されるのは毎月第 4 水曜日で、実は担当記者さんに前日夕刻に 3 部ほど届けていただいている。同じ大内地区に住んでおられるので甘えているという訳である。石州街道シリーズの前には萩往還シリーズを 36 回続けたから、かれこれ 4 年近くのお付き合いになる。とても素敵な女性の記者さんなので正直言うと、月に一度お会いできるのを楽しみにしている次第。少なくとも、あと 29 回は届けていただける！さて、記事にも書いたことだが、周布政之助という人物が良く分からない。もちろん、幕末長州藩政の重要人物であったことは間違いないが、筆者の勉強不足のせいで、どうも些末な周辺情報ばかりが目についてしまう。日く、酒に酔って土佐の山内容堂公に暴言を吐いた。日く、酔っぱらって野山獄に馬で押しかけ、晋作を激励した云々。そんなことで何度か謹慎処分を受けている。それでも山口市に自分の名を地名として残したのは彼くらいのもんだろう。「周布町」がそれで、同町内の周布公園に立派な碑が立っている。そして、その横には彼の墓もある。当時彼は変名「麻田公輔」を使っていたので、墓碑にはその名が刻まれている。政権の中核にいながら禁門の変、第一次長州征討という国難にうまく対処できなかったことに責任を感じた彼は、元治元年(1864)9月26日早朝、前回登場した吉富宅で自害した。前日、井上馨が俗論党に襲撃されたばかりであり、吉富にとっては大変なショックだったろう。政之助、享年四十二。(2022.10.27 記)



イラストでたどる石州街道 07 周布政之助の碑

周布政之助という人物が良く分からない。もちろん、幕末長州藩政の重要人物であったことは間違いないが、筆者の勉強不足のせいで、どうも些末な周辺情報ばかりが目についてしまう。日く、酒に酔って土佐の山内容堂公に暴言を吐いた。日く、酔っぱらって野山獄に馬で押しかけ、晋作を激励した云々。ただ、山口市に自分の名を地名に残したのは彼くらいのもんだろう。「周布町」がそれで、同町内の周布公園にイラストに示した立派な碑が立っている。政権の中核にいながら禁門の変、第一次長州征討という国難にうまく対処できなかったことに責任を感じた彼は、元治元年(1864)9月26日早朝、前回登場した吉富簡一宅で自害した。享年四十二。

文イラスト 古谷眞之助

